

第2回 市原市住生活基本計画策定検討委員会 議事録（議事要旨）

日 時	平成 21 年 5 月 12 日（火）10 時～12 時
場 所	議会棟 第 4 委員会室
出 席 者	<p>【策定検討委員会委員】 小林委員、鈴木委員、色川委員、木下委員、岡本委員、 小川委員、大野委員、押元委員、丸委員、柴田委員</p> <p>【事務局】 安藤都市計画部長、小出都市計画部次長、 三森主幹、鈴木住宅課長、小倉住宅課長補佐、白井 GL、小倉主事</p>
議 題	<p>市原市住生活基本計画の策定について （市原市住生活基本計画〔第 1 章～第 6 章〕のたたき台について）</p>
会議の経過	<p>白井 GL：開会 安藤部長：挨拶 委員 長：挨拶 鈴木課長：委員、職員変更の紹介 小倉補佐：配布資料の確認、会議の公開、議事録の公開について説明 傍聴者入場、傍聴者への遵守事項の説明</p> <p>【議事】 委員 長：「たたき台」の説明をお願いします。 鈴木課長：「たたき台」の説明（体系に基づき説明） 委員 長：ありがとうございます。 これまでの説明で 3 つの観点から質問をお願いしたいと思います。1 つはこの計画についての質問、もう 1 つはこの計画や基本方針への意見、これまで出された意見が反映されているかどうか、最後は今後に出てくる施策の具体化や重点施策への意見です。 この「たたき台」に掲げられた 6 つの方針全てを平等に取り組んでいくことは財政的にも難しいと思いますので、その点を考慮する必要があります。 では、私から質問です。 委員 長：この資料の現状の部分を見て、市民が防犯に対して非常に関心が高いことが伺われますが、実際に犯罪が多いのかについて、いかがですか。 安藤部長：市では、「犯罪のない安心なまちいちほら推進条例」を策定し、自主防犯組織の立ち上げを促進しました。 その結果、犯罪は半減しています。また、犯罪発生は沿岸部が多いことから、JR3 駅周辺に重点的に防犯カメラを設置するなどの措置を講</p>

	<p>じています。</p> <p>委員 長：これは重要な課題になると思われます。</p> <p>副委員長：課題等のところで、高齢者と子育て世帯を含めた居住水準の低さについてと、公営住宅の部分で入居制度の改善、及びバリアフリー化への対応の遅れという課題をあげていますが、具体的にどのような問題があるのか伺いたい。</p> <p>鈴木課長：入居の申し込みについて、高齢者等、母子父子世帯、一般に分けますと、高齢者や母子父子世帯が多くなっていることが挙げられます。また、入居者の中には収入超過者がいることや、入居すると継続して入居し続ける状況となっていることが問題と捉えており、今後、期限付き入居制度も考えていかなければならないと思っています。さらに、入居に係る優遇措置を設けていますが、申込者の全てが該当する場合もあり、問題と捉えています。また、バリアフリーについては、山木住宅以外は対応しておりませんので、今後対応していきたいと考えています。</p> <p>小倉補佐：高齢者の居住状況ですが、高齢者のみの世帯（1人世帯）は比較的居住水準に問題はありませんが、高齢者を含んだ世帯や子育て世帯を含めると居住水準には問題があると捉えています。</p> <p>鈴木課長：世帯別の資料がありますが、「65歳未満の単身世帯」で最低居住水準を満たしていない世帯が28.7%と多く、次いで「夫婦と6～17歳の子供世帯」が19.7%、次いで「夫婦と25歳以上の者」が10.0%となっています。</p> <p>A 委員：住宅や満足度について、全体としては満足度が6割を超えており高い水準にあると思いますが、南総、加茂地域では満足度が比較的低下しています。これらの状況に先ほどの防犯等の部分を重ね合わせると、それぞれの地域別に取組む課題も見えてくるとと思いますが、どのように考えていますか。</p> <p>鈴木課長：南総、加茂地域については交通の利便性に問題があると思いますが、市街地での環境の向上と、これらの地域での利便性の向上という両方を満足することは難しいと考えています。</p> <p>委員 長：市原市は地域が広く、特性も場所によってはかなり異なっています。</p> <p>小出次長：この調査は、現在住んでいる住宅と住環境を含めての満足度として捉えた調査であり、広域性が満足度の差になったことを踏まえて、これから取組む具体的な施策に活かしていきたいと思っています。</p> <p>B 委員：満足度の中身については、豊かさの実感や、どのように豊かさを伝え</p>
--	--

	<p>ていくかが重要だと思います。</p> <p>市原市は臨海工業地域から住宅地域、農村地域、緑があって山がある環境に恵まれています。それぞれの置かれた地域に環境の違いがありますが、それぞれの地域で豊かさを伝えていくためには、市原市に住む人々にいかに安定して収入を得られる環境をつくってあげられるかが重要だと思います。</p> <p>例えば、臨海企業が市原市民を優先的に雇用する枠を増す等により企業に対し優遇税として税の減免措置を設けるようなことで、より安定した収入が得られることに繋がり、豊かさが得られると思います。</p> <p>特に、現在のように生活保護を受けているアパート住まいの方が、自助努力だけで豊かさを得るには限界があると思います。</p> <p>市が臨海企業に対し市民優先の推薦状を出すなど必要なコンサルティングをしていくこと等も必要と考えています。</p> <p>安藤部長：臨海工場に対して就業の場を設けてもらうよう市としても努力をしていくとともに、南総・加茂地域においても、何が市街地でない独自の豊かさに繋がるかをよく考察して、住宅政策に生かしていきたいと思っています。</p> <p>委員長：住宅政策は周辺に広がりのあるものであり、仕事場の確保ということも関連が深いといえると思います。</p> <p>C 委員：アンケート結果からは、若年層は郊外に住宅を持ちたい、高齢者は市街地に住みたいという傾向がありますが、資金的な不安が挙げられると思いますが、何か今後の考えはありますか。</p> <p>小出次長：国でも住生活基本計画の改正を行い、リフォームの促進を挙げています。</p> <p>市におきましても、耐震対策など助成金の制度があり、進めていますが、充分とはいえませんので、今後、金融機関とタイアップして低利の融資をお願いする等の対応を検討していきたいと考えております。</p> <p>委員長：計画の中に「小湊鉄道沿線の住環境の向上」とありますが、小湊鉄道の協力を得ていかなければできないものもあると思いますが、どのように考えていますか。</p> <p>小出次長：現在、住生活基本計画の策定と同時に「市原市交通マスタープラン」の策定も進めています。</p> <p>先ほどの南総・加茂地域の交通空白地域問題を含め、交通政策をどう進めていくべきかについて、バスの問題や小湊鉄道に努力していただかなければならない部分についても、交通マスタープランで示していく方針です。</p>
--	---

	<p>このような中で住生活基本計画とも関連してくると捉えています。</p> <p>委員 長：先ほどの高齢者がまちなかを望み、若者が郊外を希望するというのは非常に重要なキーワードであり、このバランスをどう取っていくかがこの計画の鍵になると思いますので、ぜひうまく反映させてください。</p> <p>D 委員：私は五井に居住しており、利便性の点で優れていると感じていますが、小湊線も特別な割引などがあるとありがたいと考えています。</p> <p>小出次長：小湊鉄道にも企業努力していただいています。やはり運賃の高さや運転本数の問題、牛久までは本数がほどほどありますが、その先の南の地域は本数が半減してしまうので、その先の交通問題をどうするのか、また、商店や医療機関への足の問題を含めて、先ほどの満足度の結果に出ているのではないかと感じています。</p> <p>住生活基本計画と交通マスタープランをうまく連携し、豊かさの感じられるような施策をどのように盛り込んでいけるかが課題になってくると思います。</p> <p>E 委員：現在、耐震対策に取り組んでおり、これは県下に誇っていいものであると思っており、行政と一体となった耐震改修促進協議会は、初めてでないかと思いますが、今後も積極的にPRし取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>安藤部長：市原市の耐震対策は、相談から、耐震診断、耐震改修という一連の流れをもっており、この体制は全国的に見ても優れていると思えますが、この耐震対策は、今回の計画の「良質な住宅ストックの形成」に直接関わるものですので積極的にすすめていきたいと思えます。</p> <p>F 委員：住宅セーフティネットとは何だろうと考えます。</p> <p>派遣村もそうですが、住居を追い出されている人がいる中で、住宅セーフティネットをどのレベルで捉えているか、また、どのように取り組んでいこうと考えているかをお聞かせください。</p> <p>また、取り組みの視点として協働を挙げますが、例えば、臨海企業の社宅に関して、企業と協力してどのような取り組みをしていこうと考えているのかお聞かせください。</p> <p>最後に、アンケートはよく調査なされたと思いますが、アンケートには限界があり、回答をくれた方は、ある程度回答する余力のある人と思えますので、解析するときは、みなさんが実際に感じていることに対して妥当な結果が出ているのかについて、注意深く考察してもらいたいと思えます。</p> <p>鈴木課長：住宅セーフティネットについては、市場で住宅を手に入れることがで</p>
--	---

きない方や、賃貸住宅へも入居できない低額所得者の人々も含めて対応していくものと認識しています。

また、企業社宅の件については、調査を実施しましたが、その結果からは、企業は今後社宅を順次廃止して民間住宅へ移行していく傾向がうかがわれました。

この結果を踏まえ、今後研究していく余地があると思っていますので企業とも協力し、社宅の有効活用について研究していきたいと考えています。

委員長：一般的なセーフティネットのことではなくて、市原市の場合、住宅セーフティネットの対象は誰なのかという質問だと思いますが、例えば企業の住居を失った人たちまで対象として考えていくのかどうか、その点についてはいかがですか。

安藤部長：セーフティネットイコール公営住宅と必ずしも言い切れないと思っています。

これまでの住宅政策は、皆が自分の家を持つということを基本に推進してきたことがあると思います。例えば、住宅金融公庫の融資や高度成長期に人が集まる場所へ住宅公団が一定水準の住宅を供給することにより、住む場所を確保してきました。

そして、そこに入りきれない人々に対して公的な住宅で下支えしていくという考え方があったのだらうと考えています。

公営住宅が住宅に困窮する低額所得者に対して住居を提供していくなかで、セーフティネットの対象とする範囲を、一般的に住居に困っている人々と、派遣村と呼ばれているところに集まってくる失業者等まで含めて考えるかは、議論が必要であらうと思います。

委員長：セーフティネットは、対象をどう想定するかが重要で、例えば、高齢単身者のような人々を対象にするのか、失業により住宅を失った人まで含めて考えていくのかによって施策の考え方がまったく違ってきます。

後者の場合ですと、例えば、定期借家権を設定し5年程度の期限付きで対応していくことも考えられます。

市原市は工業地帯と連結している市なので、期限付き制度を含めてかなり大胆な政策を打っていけないのではないかと思います。

G 委員：市民満足度の資料では、普段感じていることがそのまま出ていると思いました。

不満である率が比較的高い市原、三和、市津、南総、加茂地域と、比較的満足度の高い姉崎、五井、辰巳台、有秋、ちはら台というように、

二分化している中にとっても大きな問題があると思います。

交通機関がないために、市原、三和、市津、南総、加茂地域の人たちは、そこに自宅があるのにわざわざ団地に出てきて、結果として1軒の家を2つに分けている状況があり、その結果それらの地域は過疎化が進行してしまい、保育園や小学校が閉鎖してしまっている。

一方で、団地には保育園、幼稚園、小学校をつくらなければいけない状況が出てきていると思います。

市原市が広いということもありますが、小湊鉄道だけの問題だけではなく、交通網を整備することによって、全部とはいいいませんが、2つに分かれている家庭を1つにまとめることができ、高齢家庭と子育て家庭が一緒に住めるような家も増えていき、望ましいのではないかと思います。

小出次長：現在は、親の選択肢や子供の選択肢が昔と比べて広がっているのではないかと感じています。

昔はそこで生まれれば高校までそこで育つことが多かったですが、今は、ライフスタイルが多様化した結果、若い世代が五井周辺に住み、2つの世帯に分かれることも現実にはあり、この問題は交通機関を整備することにより改善されることはあると思いますが、やはりライフスタイルの変化が大きな要因になっているのではないかと思います。そこで、市原に住んでいただくためには、人口30万人の目標とともに総合的に考えて取り組んでいく必要があると思います。

委員長：交通網の話が出ましたが、交通網の整備により住まい方の問題を解決していこうというのは危険であり、非常に難しいと思います。

それよりも、ひとつは南総、加茂地区の特徴を活かし、南総、加茂地区に高齢者が住んで若い人が都心に出てきているという現状を、アンケートの結果から出ているように、高齢者が都心に住んで、若い人が南総、加茂地区に住めるように逆転していくこと、もうひとつは、現実問題として親と子が同居するというのは難しいので、近居を進めるという考え方があります。

子どもたちが若いころ親の近くに住むということになりますが、近くに住む時に家を建てるかどうかということになると、資産価値がなくなるような場合には決断は難しいですが、ある自治体では、過疎地域については、公営住宅を若い人を対象とした緊急用（結婚して5～6年）につくって比較的安い家賃で利用してもらう制度を取り入れているところもあります。

市原市は臨海地域と過疎地域の両方が存在しているので今後の考え

方が重要になると思います。

小出次長：南総、加茂地区については、現在、圏央道が平成 22 度末の供用開始を目指し整備されてきています。

インターチェンジなどの状況が変わってくると田舎暮らしなどのライフスタイルなどを活かして居住する方も出てくるのではないかと思いますので、地域の特徴や変化をうまく捉えて、どのように市原に住んでいただく政策を出していけるかが大事になってくると思います。

H 委員：南総、加茂の方々も一所懸命自分たちの地域をアピールしています。コミュニティバスについては、7つの町会でスタートしましたが、運営が大変で、ボランティアを含め 200 円の賛助金を出していただき、回数券や定期券を発行するなど努力していますので、市からももう少しこのようなコミュニティ活動に対して補助をしていただけたら、他の地域でも可能ではないかと思えます。

併せて、花をいっぱいにしていこうという動きや、養老溪谷をもっと素敵な観光地にしていこうという動きもあります。

環境の問題が出ましたが、自分たちの住んでいる地域がいかにより良い所かというアピールをしていこうという一環として、小勝山の一角に土地を買い運動公園をつくりました。

今は子供が遊べる場所が少ないので、サッカー、バスケット、バレー、テニス等の道具を置いて子供が遊べる環境づくりをしています。

実際にやってみるとボランティアでも結構できるという実感を持っています。

また、自治会館も建て直し、一般に開放するなどコミュニティを活かした活動をしています。

さらに、単身高齢者の増加もあり防災マップの作製も進めていますが、個人情報の取り扱いには苦慮しています。

安藤部長：ただいまコミュニティ活動についてのお話がありましたが、この計画の中には、基本方針の 1 つとして、コミュニティは住生活の地域社会づくりに重要であるとの観点から、「住生活を支える地域社会づくり」を掲げており、ただいまのご意見はこの方針を掲げたことについて応援していただいたと理解させていただきたいと思えます。

それから、交通の問題についてですが、交通の手段が確保されることが住生活の充実にとって非常に重要であるとのご意見がありましたが、その中で、今住んでいるところにあまねく交通網を張り巡らして自由に移動できることが理想であるという趣旨の発言もあったと思

	<p>いますが、一方では、現状は現状として、もっと違った手立てを総合的に活用しながら対応していくという方法もあるのでないかとの意見もございました。</p> <p>我々が提案させていただいたたたき台には「交通」という視点が欠落しているのではないかというご指摘に対しましては、そのとおりですが、交通マスタープランの策定も進めておりますので、総合的に対応していくことが重要な視点と捉えております。</p> <p>委員 長：行政だけではできませんので、住民の力を借りて進めていくという点から、この計画にはその辺が明確に出ていると思います。</p> <p>小出次長：この基本計画は、行政がつくるのではなくて、市民の皆さんが作る感覚で、自分が住んでいる地域への愛着心がイコール満足度につながっていくと思いますので、そこを踏まえて策定していきたいと考えています。</p> <p>委員 長：交通の話は、事前に議論してある程度方針を出しておくべき重要なテーマではありますが、市原だけでなく全国的に財政が豊かであれば、全ての交通網を整備していくという対応が可能ですが、そうではないときに、どこを重点化していくかということについて真剣に議論しなければならない段階にきていると思います。</p> <p>それには大きく2つの方針があり、1つは、交通網を整備していくよりはなるべくコンパクトなまちづくりを目指すべきであるという方策をとる考え方と、そうではなくて、どこにいても快適に暮らせるような便利なまちづくりを目指すべきであるという考え方です。</p> <p>市原市はどちらを取るのかという考え方をある程度ださないと結局は総花的になり、全ていいことが書いてあるけれども何にもできないという状況になる恐れもあります。</p> <p>ここの部分が非常に重要です。</p> <p>私の意見をいえば、コンパクトなまちづくりというのは、五井とか市原の中心だけを対象にするという意味ではなくて、南総、加茂地域でも駅周辺の市街地を中心に、子どもが比較的近くに居ながら高齢者が住めるような方向を目指すのがよいのではないかと思います。</p> <p>市原市は、いわゆる「分散型コンパクトまちづくり」に非常に向いている特徴があるのではないかと感じていますので、どうか、議論して方針を出していただけたいと思います。</p> <p>安藤部長：その点に関して申し上げますと、資料の「いちはらの特性を活かしたまちづくり」の部分で提案させていただいているのが、「JR3 駅周辺のまちなか居住の促進」、に加えて、「小湊鉄道駅周辺の住環境の向上」</p>
--	---

	<p>という部分です。</p> <p>現在、小湊鉄道沿線を市街化調整区域に指定しており、住宅が張り付きにくくなっていますので、ここに規制緩和措置をとりながら、駅周辺に公共施設を含めて集約できる条件を整えて、小湊鉄道駅周辺を活性化させることによって南北のラインも活性化していく、かつ JR3 駅周辺へまちなか居住が可能な手法をとってまいりたいと考えておりますので、この部分についてご意見があれば伺いたいと思います。</p> <p>H 委員：小湊鉄道駅周辺の住環境の向上はいいと思いますが、高齢者の住宅を建設する時には、近くに病院があるということがとても重要であると思います。</p> <p>病院の近くに引っ越すケースもあります。病院を含めた住環境の向上に配慮していただきたいと思います。</p> <p>副委員長：総括的な話になりますが、アンケートの質問のところを考察してありますが、この中には結論付けているような表現がありますので、現状を踏まえて適切な表現に検討してください。</p> <p>それから、現状のところでは、いろいろな意見が出ましたが、耐震に対する市原市の取り組みや、コミュニティバスの件についても既に取り組んでいるものについては、明記したほうが今後も取り組みやすいと感じますが、いかがでしょうか。</p> <p>耐震対策についても、市原市が取り組んでいるなかで、なかなか進んでいないという現状をどう捉えるかという部分が必要ではないでしょうか。</p> <p>さらに促進するには、やはりお金の問題があるかと思いますが、ひとつの例として、耐震改修をするためには 100%改修しないと助成金を出さないというシステムから最低限の補強に対しても補助するようにしていくなどの方向性を出せば、また違った効果が出るのではないのでしょうか。</p> <p>バリアフリーの件でいえば、先ほどあまり進んでいないというお話がありましたが、進んでいないから全てダメだということではなくて、介護保険を使えば改修が可能な制度もありますので、なぜ進んでいないのかという現状をもう少し分析する必要があるのではないかと思います。</p> <p>この点については耐震改修の取り組みと同じように、建築関係者が相談を受けられるような相談窓口を市が設けるようなことも有効であると考えられます。</p> <p>この計画の中では地域性がすごく出てきましたが、課題の部分に地域</p>
--	---

	<p>性が反映されていないように思いますので、この場に出された意見等も含めて、課題の前半の部分にでも明記したほうが良いのではと思いました。</p> <p>同じく、市原の現状の問題をこの中に反映したほうがいいと感じます、例えば、一般的な表現として、これから増えていく高齢者等に対して市原市はこのような状況であるというような表現で説明するのがよいのではないのでしょうか。</p> <p>それから、基本方針の2のところ、「良好な居住環境に向けた住まいづくり」という表現がありますが、県では「良好な住環境の形成」という表現を使っていますが、住環境の部分に「住まいづくり」として表現するのは望ましくないように感じます。</p> <p>委員 長：たくさん意見が出されましたが、最初の部分は、この次の具体的施策の部分の話もありましたが、おそらく次回、具体的施策として議論がなされると思います。</p> <p>課題の整理のところでは地域性があまり出ていないということでしたが、これはそのとおりだと思います。</p> <p>最後の言葉の部分はいかがですか。住まいづくりと表現すると住宅単体のことになってしまうので、「良好な住環境づくり」といった簡単な表現のほうがわかりやすいと思います。</p> <p>課題のところでは地域性があまり出ていないということでしたが、この点いかがですか。</p> <p>F 委員：言葉の問題ですが、課題のところ「多様な住まい方を実現していく環境づくり」のところ、環境という言葉を使っています。</p> <p>それに対して、方針1の目標のところ「環境に配慮した住まいづくりの促進」の部分でも環境という言葉を使っています。</p> <p>同じ環境という言葉でも使っている意味が違うのではないかと感じます。</p> <p>課題の部分の環境は住環境ではなくて制度や仕組みをつくっていくことを表していますので、同じ言葉で使う部分はよく検討して適切な表現にしてください。</p> <p>安藤部長：これについては、整理いたします。</p> <p>B 委員：不動産業会の団体としては、市原市を早く人口を30万人にしたい思いがあります。</p> <p>あと2万人ですが、業界として具体的にどのように応援できるかということについて、市と協力して提案していきたいと思っています。</p> <p>その内容については、JR3駅を中心とした市街化に対する考え方を、</p>
--	---

	<p>この計画に明確に位置付けていくべきと思っています。</p> <p>「住む」ということと「住みつく」ということにはニュアンスに少し違いがあり、例えば、北部に住む社宅の多くの方は企業に引っ張られて市原市に転勤して来た経緯があり、この方たちが定年を迎え、故郷へ帰るのか、市原にそのまま残るのかというところが問題で、これまでは給料を得るために住んでいたが、退職後はできるだけ環境整備された中で住みたいという願望の中で、満足度から市原市に住みつきたいと思わせることが大切だと思います。幸い市原市は、気候が温暖で千葉県の中心に位置していることから、自然と地の利を生かすべきだと思います。</p> <p>定年で故郷へ帰る人を少なくして、できるだけ多くの人に市原に住み続けていただくためにも、安心安全なまちづくりを目指すことであと何割かの人が住みついてくれるのではないかと思います。</p> <p>こう考えますと、人口 30 万人も可能になると思います。</p> <p>市原は気候がいいという特徴を持っていますので、ひと工夫することで大きなメリットになると思います。</p> <p>もう 1 つは学生だと思います。学生の減っているまちは寂しく感じます。</p> <p>学生は元気を運んで来てくれますので、大学誘致を積極的に行い、市内の工場と連携し研究を深め、市内大学の就職率を高めることも必要だと思います。</p> <p>また、安全や防犯については民間に頼ることが多くなると思いますが、そのことが地域のコミュニティをより活性化し、住民自ら造るまちづくりにつながっていくと思います。</p> <p>不動産業界も平成 25 年度から公益法人化することとなり、そうなる業務の半分以上公益事業に参加しないと減税が受けられなくなりますので、特に安全や防犯の分野について、災害時の女性や子どものプライバシーを守る意味で空きアパートなどを利用した緊急時の住居を円滑に供給できるシステムを、不動産業界として可能な限り協力していきたいと考えています。</p> <p>小出次長：市原に住んでいただく方が増えれば不動産業界にとってもメリットになりますので、行政としても研究していきたいと思っています。</p> <p>委員長：人口 30 万人の話は前回もだされたと思いますが、住みつきたくなるような良質な住宅をつくっていくということはいいことですが、現在の世の中の情勢を考えると、直接人口 30 万人に結びつけるのはあまり望ましくないと思います。</p>
--	--

A 委員：市原の特徴や良さをこの計画の中に示したほうが良いと思います。市原市は、JR線沿いの沿岸部と小湊鉄道沿線や、郊外の団地など非常に多様な状況があり、多様なライフスタイルに対応できるようなベーシックな環境をかなり贅沢に持っているという評価をすべきであると思います。

その時に、どこに住むかはそれぞれの個人の選択になりますが、そのような選択が出来るようにするためには、地域社会がすべて満足しているところはありませんので、それぞれの地域で、その地域の方々が協力し合って地域の問題を改善していくかというハードだけではないソフトや仕組みの部分も一緒に考えていくことが非常に大事だと思っています。

まちづくりの面からいきますと、今、国は従来型のインフラ整備にどんどんお金をつけていくという考え方ではなくて、地域の人たちが地域の課題を改善していくことに対して支援しようという考えに変わってきていますので、そういう意味からしても、地域の人たちが、いろいろな課題に対して対応できるようなソフトの仕組みづくりを応援していく、エリアマネジメント呼んでいますが、そのような部分につなげていく方向です。そうすると、交通問題を含めた色々な問題が、地域の中で地域の特性を踏まえながら地域が選択していく、その内容は地域によって異なり、同じようなやり方ではないかもしれませんが、そういった流れの中で住生活やまちづくりの考え方を変えていかなければならない時代であるという方向性をこの計画の中に入れていかなければならないと思います。

H 委員：やはり何をやるにも問題は予算ですが、いいお話を聞いたのでそのような考えで研究していこうと思いました。

F 委員：A委員と同じようなことを考えていたのですが、住生活がまさに人の暮らしが基本だとすると、その地域でそこに暮らす人が主役だと思います。

そうすると主役である市民の参加を保障するようなことをしっかり明記しておく必要があると思います。

もう1つは、立派な冊子ができて、後はお任せではなくて、きちんと市民がそこに関わって評価をして、課題解決に皆が取り組めるシステムを入れてもらいたいと思います。

委員長：市民参加による住生活懇談会みたいなものが必要ですね。

他にないようですので、本日の意見を踏まえ次回に向け策定作業を進めてください。

	<p>それでは、本日はこれで閉会としたいと思います。長時間にわたりありがとうございました。</p> <p>鈴木課長：ありがとうございました。</p> <p>本日の意見を踏まえ7章、8章の策定を進めてまいります。</p> <p>次回は、7月の中旬ごろを予定しております。</p>
--	--